

**チモシー極早生品種「クンプウ」の特性と早晩生が収穫・調製に及ぼす影響**

チモシーの極早生品種「クンプウ」は、梅雨入り前に 1 番草、梅雨明け後に 2 番草を収穫・調製できることから、阿蘇地域で利用が可能である。しかし、他の品種は、収穫・調製時に梅雨の影響を受ける可能性が高い。

農業研究センター草地畜産研究所 (担当者: 森 和彦)

**研究のねらい**

草地で生産される寒地型牧草は、草種によりそれぞれ特徴があるが、それらを補完するために、新たな草種の導入が求められている。チモシーは、耐寒性が高く、搾乳牛用の自給飼料としても利用される寒地型牧草であるが、その栽培は、北海道が主体で、本州ではわずかである。その原因として、オーチャードグラス等の他の寒地型牧草より出穂が 1 週間以上遅く、1 番草の収穫時期が品種の早晩生によっては、梅雨時期に重なる可能性があることと、耐暑性が低いため、永年牧草としての利用が難しいことなどが考えられる。そこで、チモシーの品種の早晩生が収穫に及ぼす影響を検討し、阿蘇地域における栽培の可能性を明らかにする。

**研究の成果**

1. 極早生品種「クンプウ」は、5 月中～下旬に出穂し、梅雨入り前に 1 番草、梅雨明け後に 2 番草の収穫・調製が可能である (梅雨時期を避けて収穫できるのがメリット、九州北部地方の平年の梅雨入りは 6 月 5 日ごろ、梅雨明けは 7 月 19 日ごろ) (表 1)。
2. チモシーの早生 (「ホライズン」を除く)、中生、晩生品種は、1 番草の収穫適期である出穂期が、梅雨入り後であるため、①継続的な降雨により倒伏し、農業用機械による収穫が難しいこと、②刈取り後の調製に必要な連続した好天気を確認できないことなどから、本県阿蘇地域で栽培すると、収穫時に梅雨の影響を受ける可能性が高い (表 1)。
3. 「クンプウ」の乾物収量は、播種翌年で約 1,400kg/10a、利用 2 年目で約 700kg/10a 程度で、トールフェスク「ウシブエ」と比べて播種翌年は同程度であるが、越夏性が弱いため利用 2 年目は少なくなる傾向がある (図 1)。

**普及上の留意点**

1. 本成果は、標高約 900m、年平均気温 11℃、年間降水量約 3,000mm の地理的条件及び気象条件で得られたものである。
2. 早生品種「ホライズン」は、出穂期が梅雨入り直前であるため、調製時に梅雨の影響を受ける可能性が高い。
3. チモシーは、他の寒地型牧草と比べて刈取り後の再生が遅いので、3 番草は期待できない。

表 1 出穂時期と収穫時の倒伏、病虫害被害状況 (H24 年度)

早晩生	品種	出穂期		倒伏		病害		虫害	
		I	II	I	II	I	II	I	II
極早生	クンプウ	5/18	7/27	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
早生	ホライズン	5/30	-	1.0	1.0	5.0	1.0	1.0	1.0
	SBT0314	6/11	-	9.0	1.0	4.0	1.0	1.0	1.0
	SBT0002	6/13	-	8.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
中生	ヘリオス	6/26	-	9.0	1.0	1.0	1.0	4.0	1.0
	アルテミス	6/26	-	9.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
晩生	シリウス	7/ 9	-	9.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

注 1) I : 1 番草、II : 2 番草、

倒伏、病虫害 : 1 (無) ~ 9 (被害甚)

注 2) 播種日は、クンプウ、ホライズン、シリウス : 平成 22 年 9 月 24 日、その他 : 平成

23 年 9 月 6 日。播種量は、2kg/10a。年間施肥量は、N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=13:10:13kg/10a (成分)。

調査時期は、1 番草 : 出穂期、2 番草 : 8 月 3 日 (クンプウ、ホライズン)、9 月 8 日 (その他)、9 月 25 日 (シリウス)。

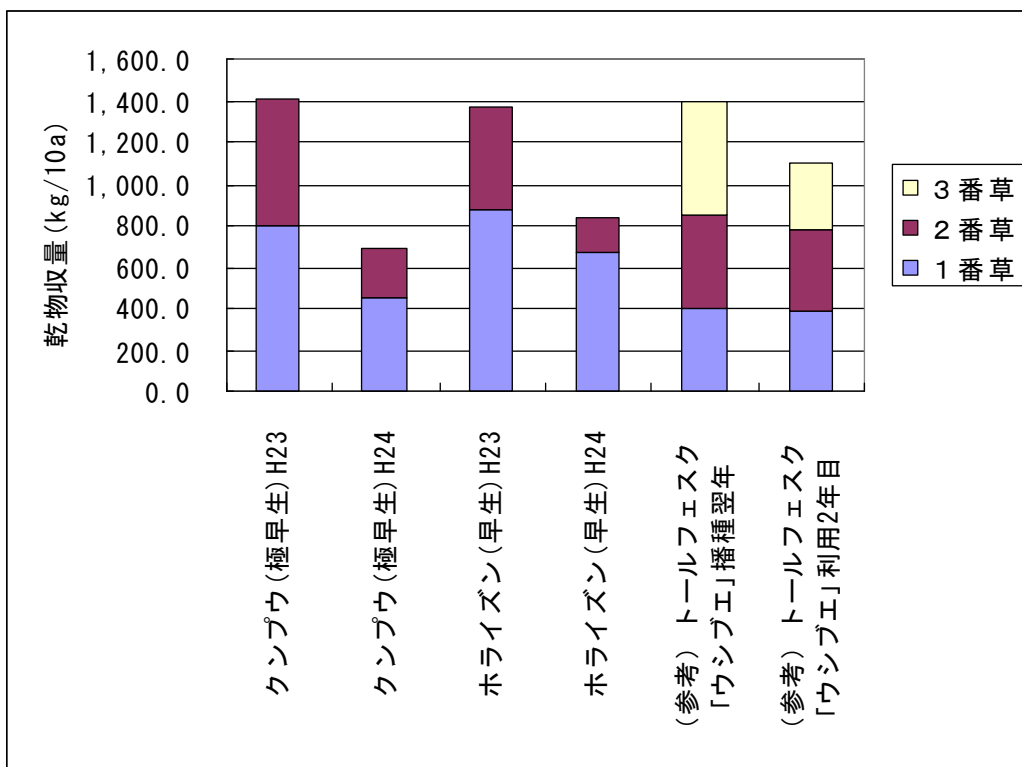


図 1 乾物収量

注 1) 倒伏した品種については、実際の生産現場では、農業用機械による収穫が困難なことから除外した。

注 2) チモシーは年 2 回刈り、参考のトールフェスクは年 3 回刈りの結果。